

平成の名靴、名小物の「これから」を語る。

“スーツな男”の  
ベストスタイル&  
マストバイ  
[メンズ・イー・エックス]

# MEN'S EX

加藤綾子×キーパーソン対談  
「スポーツ庁長官 鈴木大地さん」

王道の男、本物をシコウする  
vol.10「IWC」

1  
Jan.  
2019

今までもこれからも、  
お洒落の要はこの173点

## 平成の名靴、 名小物 を再考する

いい男の極みには  
「黒ニットタイ」が  
欠かせない

これからの社交のお酒は  
「日本ワイン」  
と覚える

“今”な王道STYLEを考える  
新説・コンサバ手帖  
～英国アウターの王道の装い一週間～

www.mens-ex.jp

社交の勝者はすでに飲んでいきます

# 「日本ワイン」を 今、改めて覚える

国産ワインは薄くて甘い……。そんな先入観を持ってはいないだろうか。ところが実は今、新しい造り手が増え、新たなスタイル、そしてクオリティを追求した「日本ワイン」が誕生している。すでにプロや愛好家たちの間では「日本ワイン」は世界に誇れるワインへと成長を遂げているのだ。折しも世界のグルメ達の目は日本の「食」に向いている。国際舞台で活躍するビジネスマンならばこれを糧に自国の食文化、ワインについて知っておくことをお勧めしたい。

撮影：坂本昭子



## 知る

### 日本のワインを愛する会 会長 辰巳琢郎さんに聞く 今、日本ワインが注目されるワケとは？

日本のワインを愛する会 会長 辰巳琢郎さんに聞く

**ME** 辰巳さんはこの度、「日本のワインを愛する会」の会長に就かれ、日本ワインの発展に尽力されることですが、なぜ、今、日本ワインなんなのでしょう？

**辰巳** ちょうど2018年の10月30日に開府庁による初めての「日本ワイン」に関する表示ルールがスタートしたんです。いわば「2018年は『日本ワイン元年』」近々、日本のワイナリーは300軒をこえます。佐賀と徳島を除く、ほぼ全国にワイナリーは存在し、バラエティ豊かな日本ワインが誕生する時代になりました。

**ME** それはかなりの数ですね。魅力あるワインが増える一方で、まずおさえておくべきは？

**辰巳** サントリー（愛媛の丘ワイナリー）、畑尻ワイナリー（長野）、ナリー（シヤトー・メルシャン）、サッポロ（静岡、岡山、アサヒサントネージュ）のビール4社にキッコーマン（マズワイン勝道ワイナリー、小樽ワイナリー）を加えた大企業各社のレベルは驚かすほど

「日本のワインを愛する会」が愛する

していますね。それから、山梨でしたら御三家、甲州産、クワイ、スズナリ、アサヒワイナリー。このあたりは歴史的に供給されていますので、是非味わってみてください。

**ME** 日本は独自の品種でワインを作っていますよね？

**辰巳** そう、ワインはその国、地域のテロワール（土地の味や特徴）を表現するもの。ですから、**甲州**は日本ならではの品種を味わっていただきたいです。白なら甲州、赤ならマスカットベリーAが代表品種。ほんのりとした果実味に旨味や苦味があり、日本人の舌にもなじみやすいですね。

**ME** 甲州ワイナリーも上がっているのでしょうか？

**辰巳** ひと昔前は、国産ワインといえは、薄い、甘い、不味いというイメージがありました。この二十数年で日本のワインは劇的に変わりました。日本全国でバラエティ豊かなワインができていますので、ぜひ、地元のものを味わっていただく。そうして日本のワイン文化、食文化を高めていくことも、今後発展した「日本のワインを愛する会」の大きな目的です。

たつみ・たくろう 1968年生まれ、京都大学卒業。料理として活躍する一方で、ワイン愛蔵も企画。13年間で200軒以上のワイナリーを踏査。2018年「日本ワイン」を受賞するまで立ち上げ、会長に就任。近著に『日本ワインの歴史』と『日本ワインの未来』があるという自身のメモリー。



辰巳さんが愛する日本の傑出品種  
甲州&マスカットベリーAで  
日本ワインの実力に触れる

イチゴジャムやキャンディのような甘さを持つマスカットベリーA。辰巳さんのイチゴ押しは、「ダイヤモンド酒造」の酒造長宮さんが語る。『まさにマスカットベリーAの牽引役。それから、このぶどうの産地の『若の産地』の『若の産地』(女)も湧らからて真深い。甲州ならば『中央酒造』の三澤幸太郎さんが手がける『甲州産地』(若)は素晴らしい味わいで海外からも高く評価されています。



2018年11月1日、「日本のワインを愛する会」が立ち上げられ、漫画『神の印』の原作者榎本 伸さんや、日本ワインの黎明期を描いた映画『ウスケボーイズ』の穂積ゆうじ監督も会員には登壇した。